

報道関係機関と地球研との懇談会

2019年 10月25日（金） 14:00～15:15

ハートピア京都 3階 視聴覚室

〒604-0874 京都府京都市中京区 清水町375 TEL. 075-222-1777

司会進行：木村 葵 地球研広報室

1 開会挨拶

Hein Mallee 副所長

2 最近のトピックス

（特記事項）

日本学術会議会長談話「地球温暖化」への取組に関する緊急メッセージ」の公表について

9月19日、日本学術会議の会長談話として「地球温暖化」への取組に関する緊急メッセージが発出されました。地球研所長安成哲三が委員長を務める日本学術会議のFuture Earthの推進と連携に関する委員会では、関連する委員会・分科会とも連携し、急激に進行している「地球温暖化」とその影響に対し、科学者コミュニティとしてどう取り組むべきか、社会とどう協働すべきかを検討してまいりました。

この議論には、Future Earth国際事務局のグローバルハブ日本（東京大学・国立環境研究所など）や地球研が担っているFuture Earthアジア地域センターも参画しています。

9月23日にニューヨークで行われた国連気候行動サミットに合わせて、国内の関係機関や市民に対し、この問題の重要性と緊急性を伝えるために、学術会議の会長談話という形で発信したものです。

地球研も諸機関と連携を図りながら、地球規模の課題の解決に向けて積極的に取り組んでまいります。



地球温暖化に関する緊急メッセージを発出に参画した地球研安成所長（左から2人目）。

メッセージはWEBサイトよりご覧いただけます。

（日本語）<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-d4.pdf>

（English）<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-d4e.pdf>

インドネシア国立ランブン大学との学術交流協定を締結

7月29日、地球研とインドネシア国立ランブン大学（Hasriadi Mat Akin 学長）は、相互の研究の発展、交流を図るため、学術交流及び研究協力に関する基本協定を締結しました。

国立ランブン大学はインドネシア・スマトラ島のランブン州の州都バンダールランブンに1965年に設立された国立大学で、農学部、法学部、教育学部、工学部、政治学、薬学部などを有し、35,000人の学生数を誇る大学です。地球研の榊原正幸教授率いる研究プロジェクト「高負荷環境汚染問題に対処する持続可能な地域イノベーションの共創」の推進を中心に、今後両機関において研究・教育活動の交流や人材交流について、継続的に連携を図ってまいります。



文書を取り交わす Hasriadi Mat Akin 学長（左）と
谷口真人地球研副所長（右）

（受賞）

藤吉麗研究員らが 1st ISO-FOOD International Symposium on Isotopic and Other Techniques in Food Safety and Quality にてベストポスター賞を受賞

2019年4月3日、地球研の環境トレーサビリティプロジェクトの陀安一郎教授、藤吉麗研究員とFEASTプロジェクトのSteven McGreevy 准教授、Christoph Rupprecht 上級研究員による共同研究「Trust me? Consumer trust in expert information on food product labels」が、スロベニアにて ERA Chair for Isotope Techniques in Food Quality, Safety and Traceability が主催したシンポジウム 1st ISO-FOOD International Symposium on Isotopic and Other Techniques in Food Safety and Quality において、ベストポスター賞を受賞しました。

黄琬惠研究員らが農村計画学会 2019 年度春期大会にてポスター賞を受賞

2019年4月13日、地球研のプロジェクト「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装」の黄琬惠研究員らによる共同研究「成長管理は水害リスク削減をより効果的にする：滋賀県を対象としたシナリオ分析」が、農村計画学会 2019 年度春期大会のポスター賞を受賞しました。

地域環境知プロジェクトの成果本『里海学のすすめ 人と海との新たな関わり』が日本沿岸域学会出版・文化賞を受賞

地球研のプロジェクト「地域環境知形成による新たなコモンズの創生と持続可能な管理」（研究期間：2012～2016年度）の成果を活用した出版物『里海学のすすめ 人と海との新たな関わり』（鹿熊信一郎・柳哲雄・佐藤哲 編、勉誠出版）が日本沿岸域学会出版・文化賞を受賞しました。

陀安一郎教授が第20回生態学琵琶湖賞を受賞

2019年6月、研究基盤国際センター計測・分析部門長であり、地球研のコアプロジェクト「環境研究における同位体を用いた環境トレーサビリティ手法の提案と有効性の検証」のリーダーをつとめる陀安一郎教授が、第20回生態学琵琶湖賞を受賞しました。

3 講演会・セミナーなどのお知らせ

環境型映像展示とワークショップ

たまちゃんの「よもぎパン」

よもぎの里甲津原 伝統の味／未来レシピをさがして

2019年11月1日（金）-4日（月・祝）/8日（金）-10日（日）

10:00～16:00 入場無料 申込不要

奥伊吹ふるさと伝承館（滋賀県米原市）

地域の森や野山の恵みを生かした食を環境型映像で展示します。会場は、古来から「よもぎ」で有名な滋賀県米原市の奥伊吹にある甲津原集落。

築300年以上の古民家を移築した奥伊吹ふるさと伝承館の一室を舞台に、四季折々の味とそれを取り巻く人々のすがたを映像で展示します。期間中に未来の食レシピのヒントを探るワークショップも開催します。



第29回地球研地域連携セミナー（諸塚村）

「未来を切り拓く『人づくり・地域づくり』 一ふるさとの強み（世界農業遺産）をどう生かせるか」

2019年11月12日（火）11:10～16:00

諸塚村立諸塚中学校（宮崎県東臼杵郡） 入場無料 申込不要

宮崎県北5町村において「世界農業遺産を地域でどう生かすか」という問いをベースにした継続的セミナーの4回目となります。今回は宮崎県内中山間地の人づくり・地域づくりの関係者等が一堂に会し、各自治体における特色ある取組等についての情報を共有するとともに、地球研をはじめとする研究機関、宮崎県内教育委員会職員、地域住民、地元の中学生等を交えての協議、交流を通して、今後の人づくり・地域づくりに関する様々な課題の解決に向けて対話を行います。

映像上映とワークショップ

深福（しんぷく）さんの100才ごはん

やんばる田嘉里 伝統の味とあなたの未来レシピ

2019年11月28日（木）

第1部 14:00～15:00 第2部 19:00～20:00

田嘉里集落センター（沖縄県国頭郡） 入場無料 要申込

地域の伝統を見なおし、未来のレシピのための映像とワークショップを行います。食は、日々の体の糧であると同時に、心の糧。今日の食は、未来を作ります。そして、食の記憶は、100歳まで残ります。やんばる田嘉里に住む100歳の深福（しんふく）さんの食インタビューと農園の映像、京都の子供たちの書いた食の絵画を見ながら、伝統の味と未来の食について考えます。



第30回地球研地域連携セミナー（滋賀）

「楽しみながらまもる」流域圏の姿（仮題）

2019年12月22日（日） 13:30～16:30

滋賀県立琵琶湖博物館 入場無料 申込不要

地球研栄養循環プロジェクトでは野洲川流域を対象に、上中下流域の住民の身近な環境への働きかけが河川流域や琵琶湖流域にどのような効果をもたらすのかを研究してきました。また、湖南流域環境保全協議会は野洲川下流域を含む湖南エリアを対象に、地域の環境保全活動に取り組んでいる団体や個人とのパートナーシップのもと、身近な水環境の一斉調査やフォーラム開催を行ってきたほか、現在は地域資源としての「天井川」に着目した取り組みを始めています。

本セミナーでは、上流下流それぞれの地域で取り組まれてきた活動が、身近な環境を「楽しみながら守る」ことをベースとしていることに着目します。各団体の取り組みを発表してもらうことがセミナーの核となりますが、単なる発表会にとどまらず、個々の地域で行われてきた活動がどのように地域の人々の「楽しさ」につながっているのか、また流域に対してどのような効果があるか、現時点までのプロジェクトの成果を用いて「効果の見える化」を行います。

京都環境フェスティバル

2019年12月7日（土）8日（日） 10:30～16:00

京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ） 入場無料 申込不要

「京都環境フェスティバル」は、府内の各地域で活動するNPOや学校、企業等が出展し、環境について楽しみながら、学び考えることができる参加・体験型イベントで、地球研もブース出展いたします。

第9回 同位体環境学シンポジウム

2019年12月20日（金） 13:30～16:30

総合地球環境学研究所講演室 要申込

最新の分析技術の開発や普及、環境研究についての情報交換を目的に研究者コミュニティを対象に年1回開催しています。次世代研究者の交流を図り同位体環境研究の促進とネットワークの強化を目指します。基調講演と、ポスター発表を中心としたシンポジウムとなります。（学術コミュニティ向け）



先端技術と根性で明らかにしたリンの起源

いしだ たくや
石田 卓也

地球研「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会—生態システムの健全性」研究員

生物にとって重要な栄養素であるリンの動態（存在量や動き方）が人間の活動によって変化すると、赤潮や水質悪化などの環境問題が発生してしまいます。そのため、川や湖へどこからリンがやってきているのか（リンの起源）という情報は、そのような環境問題の発生を防ぐのに非常に重要です。そこで私たちは川のリン起源を特定するためリン酸酸素安定同位体比というリン起源を追跡できる先端分析技術を使って河川調査を行いました。この分析は試料処理が技術的に難しく多大な労力を要するため、世界でも限られた研究グループでしか行われていません。リン酸酸素安定同位体比を分析するために、河川水の試料を集めるだけで約1か月、その水を処理するためにさらに1年以上の時間が必要でした。その間、実験は何度も失敗を繰り返し、全てを放り出したい気持ちと闘いながら、ようやくデータを得ることができました。

そのデータを解析した結果、調査流域では岩石と水田が重要なリン起源だということがわかりました。私たちのこの研究は、世界で初めて流域スケールでリン酸酸素安定同位体比を適用し、リン起源の評価に成功した例となりました。リン酸酸素安定同位体比は、水質改善が必要な河川や湖沼で効果的な対策を考える重要な情報を提供できると期待されます。



野洲川流域での河川調査の様子。住宅地を流れる小川から野洲川本流まで様々な場所で調査を実施。



出でよ！地球環境問題に立ち向かう高校生 —府立高校との教育協力協定の取り組みから

そうだ かつや
宗田 勝也

地球研 研究基盤国際センター コミュニケーション部門 研究員

地球研は、京都府立北稜高等学校、京都府立洛北高等学校と教育協力協定を締結し、環境に関する授業のサポートを通年で行っています。

北稜高校は、複数の研究員による講義を行い、高校生自身がテーマを設定し研究を進めます。年度末に地域の小学校と学習交流会を行い、小—高連携を実現しています。また、洛北高校は、社会調査の基礎を習得する授業と、習得したスキルを用いて、自由に研究を進めていく授業をサポートしています。

私はもともと難民問題が専門です。難民支援の現場で若い世代の方々との出会いを重ね、彼らの原点が高校生のときに触れた難民の話だとよく聞きました。1度の授業であっても人生を変える力があることを教わりました。

いま、国連気候行動サミットでスピーチした16歳のグレタ・トゥーンベリさんをはじめ、高校生と同世代の若者による行動が世界各地に広がっています。人間と自然の関わりについて考え、行動する人を育もうとしている現場から報告いたします。



北稜高校の授業風景（地球研講演室）



自然を活かして災害をいなくす： 地域に眠る知識・知恵に光をあてる

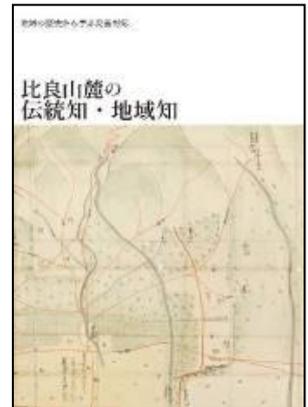
よしだ たけひと

吉田 丈人 地球研准教授・「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装」プロジェクトリーダー

洪水・土砂災害・高潮などの自然災害は、気候変動にともない増加しつつあり、自然災害リスクへの適応が待たないで求められています。私たちは、生態系がもつくみや働きを活用する防災減災の手法（Eco-DRR）に注目し、多くの地域で進みつつある人口減少を土地利用の見直しが可能になるチャンスととらえ、豊かな自然の恵みと防災減災が両立する地域社会の実現に向けて研究を実施しています。

今回は、防災減災に関する伝統知（世代を超えて受け継がれてきた知識・知恵）や地域知（地域に特有の知識・知恵）について紹介いたします。人が自然の恵みと災いから絶え間なく影響をうけるなかで、人と自然の関わりの歴史が紡がれてきました。さまざまな技術の発展とともに、自然災害による被害を減らすことに成功してきましたが、そのすべてを技術の力で押さえ込んでおくことは現代にあっても不可能です。現代の技術が発展するより前の時代には、人はどのようにして自然の恵みや災いに付き合ってきたのでしょうか。長い時間をかけて、人が自然とつきあうための豊富な知識や知恵が蓄積されてきました。それぞれの地域において、それぞれの人と自然の関わりが模索されつくられるなかで、伝統知や地域知が、膨大に蓄積されてきました。

シリーズ「地域の歴史から学ぶ災害対応」は、私たちの先輩方が自然の恵みと災いにどのように付き合ってきたかを、いま一度振り返ってみるきっかけを提供したいという思いで制作しており、その第1巻「比良山麓の伝統知・地域知」が発刊されました。地球研ホームページから、無料の電子ブックでご覧いただけます。



シリーズ「地域の歴史から学ぶ災害対応」第1巻「比良山麓の伝統知・地域知」。地形や文化、歴史資料から暮らしを読み解くことで、地域の人々がいかに自然の恵みを利用しながら災害に対応してきたかをまとめた書

<http://www.chikyu.ac.jp/publicity/publications/others/img/HIRASANROKU/HTML5/pc.html#/page/1>

5 出版物その他

●地球研 要覧 2019



●ニューズレター



●刊行物・冊子



そのほか、会場にてご用意いたします。

地球研ホームページ <http://www.chikyu.ac.jp/>

最新論文やイベント告知・報告を随時掲載しています。

 <https://www.facebook.com/RIHN.official>

 <https://twitter.com/CHIKYUKEN>

イベントのお知らせや研究会の様子など日々更新しています！

 <https://www.youtube.com/user/CHIKYUKENofficial>

過去に行ったイベントの動画や、不定期でシンポジウム等の同時配信を行なっています！



ゆるキャラグランプリ 2019 に地球犬くんが参戦しています！

是非応援をよろしくお願ひします。

懇談会についてのお問い合わせ



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature

広報室 木村

TEL: 075-707-2128 (直通) FAX: 075-707-2106 E-mail: [kikaku\[at\]chikyu.ac.jp](mailto:kikaku[at]chikyu.ac.jp)

*[at]を@に変更してください。